

ああ、恥ずかしい山の失敗談

私はあまり失敗しないので、これと言った失敗談はない、と言ってしまっただけでなく、いただいた紙面が無駄になる。あります！、あります！落とし物、忘れ物！あれはいつのことだったろうか……。日高の山の下山後帰り道の車中で、カミさんからちょっと怒ったような調子の電話があった。

「今どこにいるの？」（怒）「どこって日高の方だけど……」

「警察から電話来たので何かあったと思ってビックリしたよ！」（怒）

とりあえず謝りを入れて事情を聞いた。電話は浦河警察署からで、「テントが拾われて届いているので引き取りに来て欲しい」という内容であった。

たまたま近くにいたので、警察署に行き、身分照会・事情聴取のうえ、無事にテントを引き取ったが、なんかキツネにつままれたような気がした。なぜならその後使う機会がなかったもので、失くしたことを忘れていたのである。なんとも大ボケな話である。

思い起こせば確か2009年2月冬に南日高野塚岳～楽古岳縦走の折、時間切れで長い十勝岳西尾根を下山中に暗くなり、月明かりの中急斜面で転倒した時に外付けして落させたようである。拾ってくださったのは静内山岳会の方であった。

たまたま連絡先が外袋に書いてあったので連絡が来たのは分かるとしても、登山道でもないヤブ斜面でどうして1年後に発見されたのだろうか。あの時は膝上の深雪だったから、埋没してその後の降雪でさらに埋没、春の雪解けで笹が立ち、その年の積雪でまた埋没したはずなのに……。1年数ヵ月後に山岳会の方がGWに入山して偶然露出していたテントを発見したらしい。

テント（ゴアライト）は一年以上日射や風雨にさらされながらも、ほとんど損傷無く使用できる状態であったことには驚いた次第です。なんとも不思議な落とし物経験だが、この時以来カラビナにいたるまで登山用具にはできるだけ名前と電話番号を記入している。小さいことだがおかげで、赤岩で紛失したナッツやホイッスルも無事に帰還している。赤岩でパーティ内なら色テープでもいいが、他の山域での紛失を想定すると電話番号は重要かと思う次第である。

笑える話はもうひとつふたつありますがまた別の機会にいたします。

「わたし、あまり失敗しないので！」（笑）え！茨城弁ですか！

「おらあ、あんまししっぺえしねーがんね！（しっぺえしねっぺよ！）」
（イントネーションが大事！）

（吉成）